

4. 効果の検証（事後調査）

農に軸足を置いた食育活動が消費者の食生活にどのように影響を与えたのか効果検証を行った。

食習慣調査（BDHQ調査）

調査日：平成25年12月中旬

対象店舗：はたけんぼ（福島県）

しよいか〜ご習志野店（千葉県）

南部じまん市（静岡県）

とれったひろば関店（岐阜県）

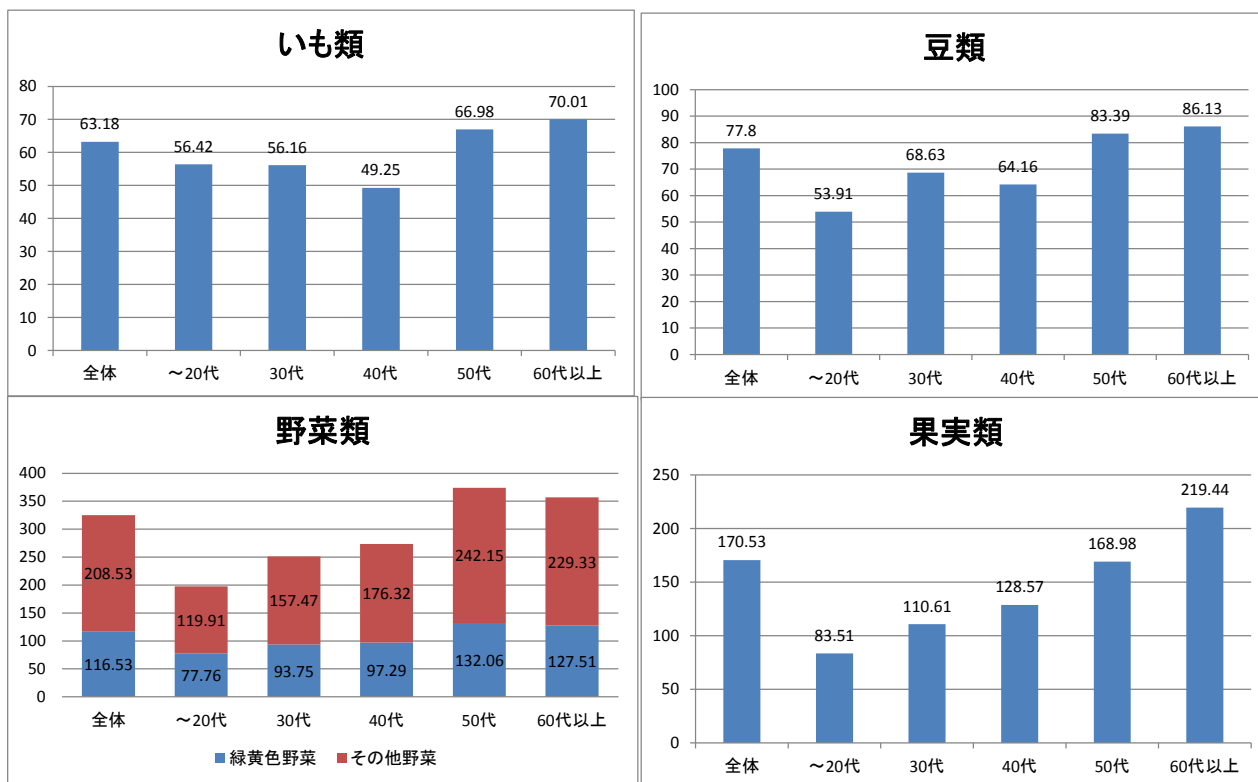
伊都菜彩（福岡県）

対象者：事前調査に回答した直売所利用者

回収数：367人

野菜摂取量、果物摂取量ともに増加

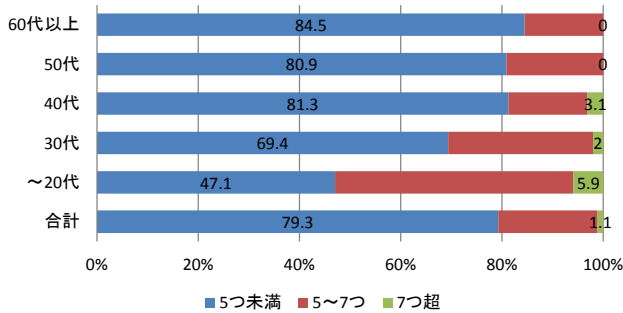
■食品群別摂取量



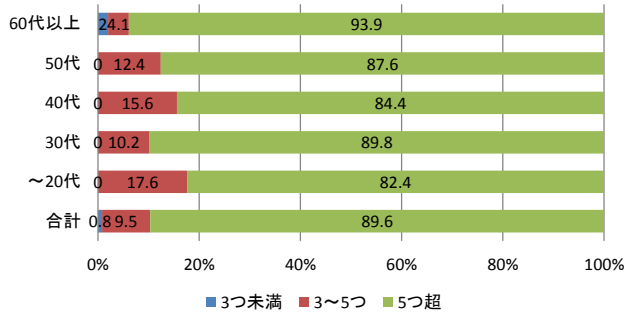
野菜の摂取量は317.6gから325.1gに増加。40代、50代の野菜摂取量が大きく増加している。果物の摂取量は112.2gから170.5gに増加。すべての年代で増加している。

食事バランスも向上

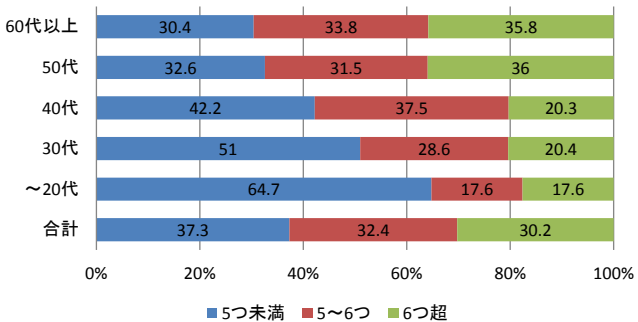
主食の摂取状況(食事バランス)



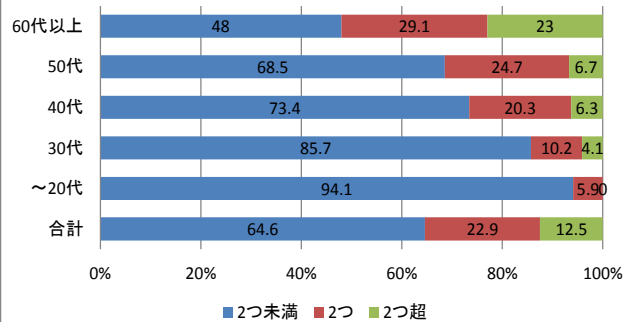
主菜の摂取状況(食事バランス)



副菜の摂取状況(食事バランス)



果物の摂取状況(食事バランス)



食事バランスで目標とする主食の摂取量5~7つを満たす人の割合は2割に増加している。副菜の摂取量5~6つを満たす人の割合は約3割で7ポイント増加している(26.3%→33.8%)。果物の摂取量2つを満たす人も約2割と増加した。

■栄養素別摂取量の変化

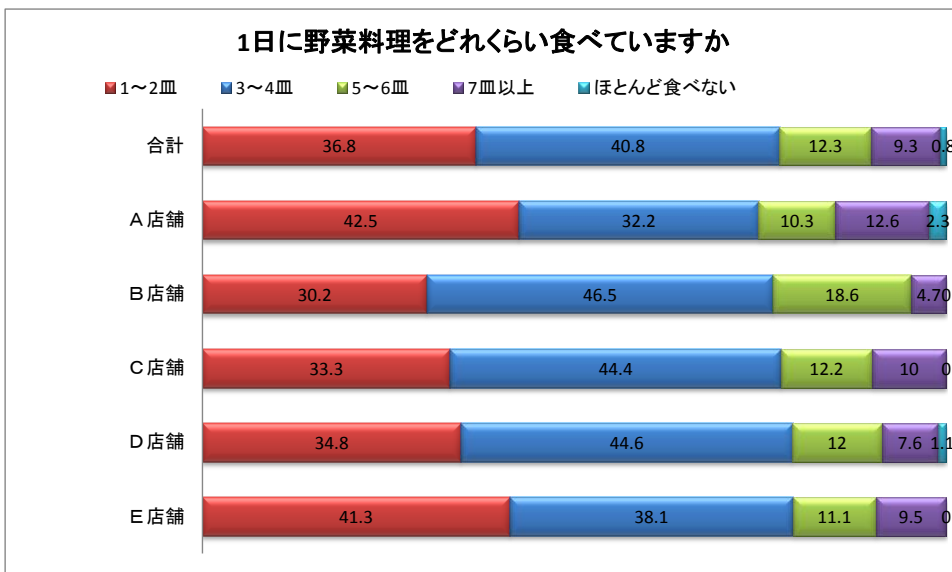
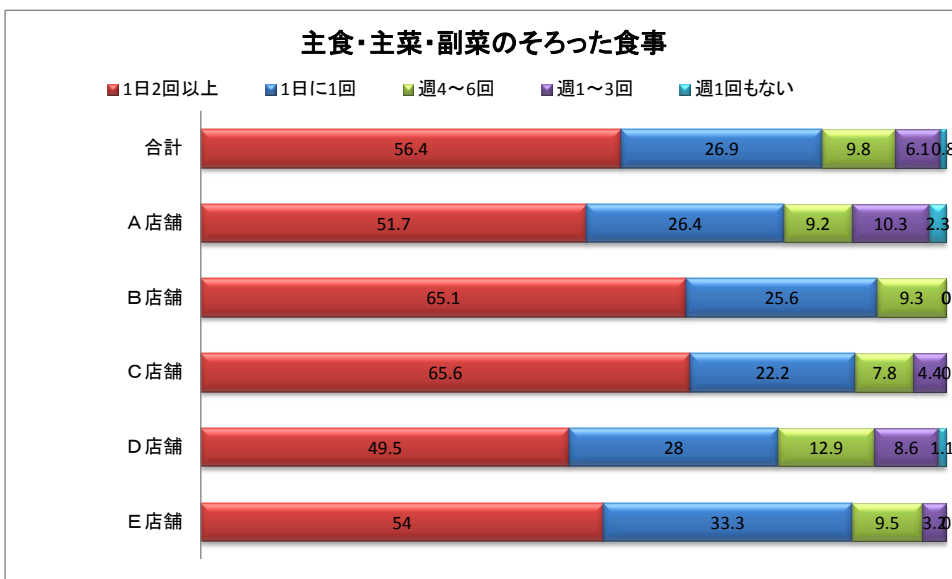
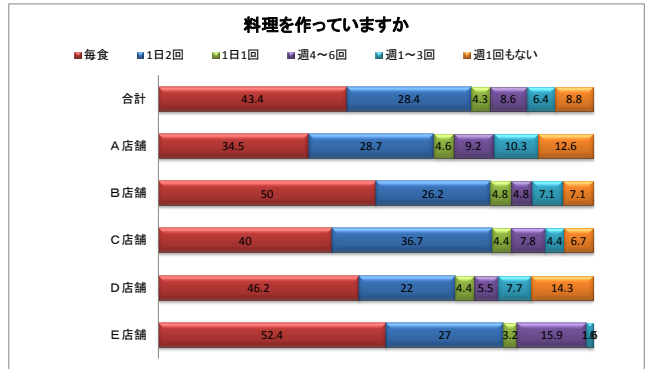
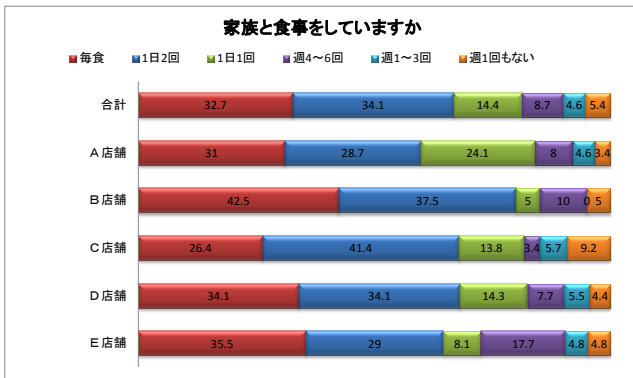
栄養素別の摂取量変化

	事前	事後
エネルギー(kcal)	1860	1804
炭水化物(%E)	52.5	54.9
たんぱく質(%E)	15.9	16.2
脂質(%E)	28	26
食塩相当量(g)	11.2	10.9
コレステロール(mg)	397	390
総食物繊維(g)	13.2	14.7

※事前、事後両方回答した360人の平均値

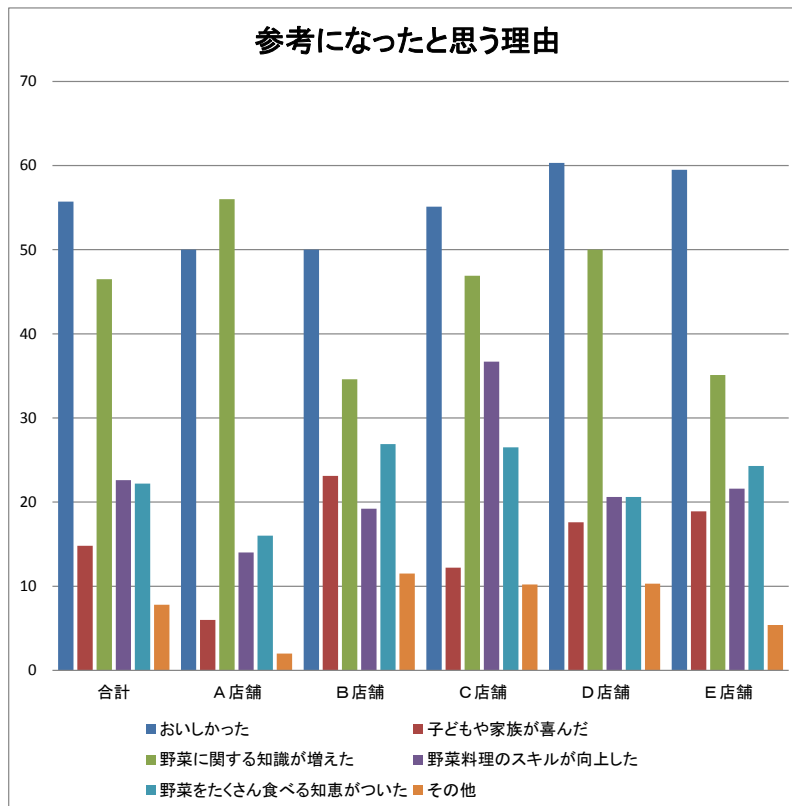
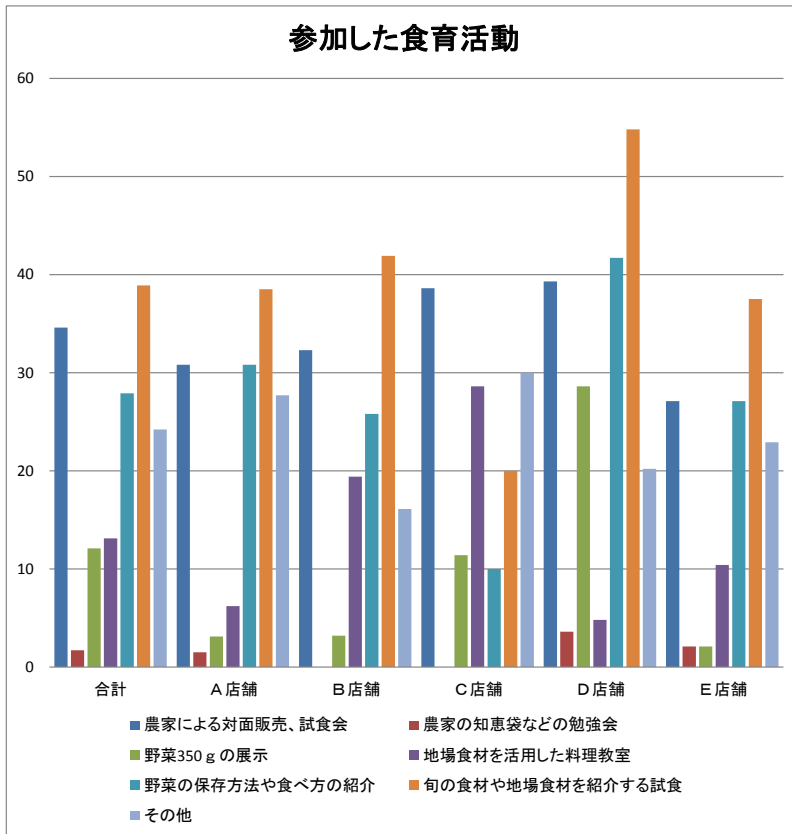
食に関する意識調査

食の環境は変えにくい、食の質には効果を発揮



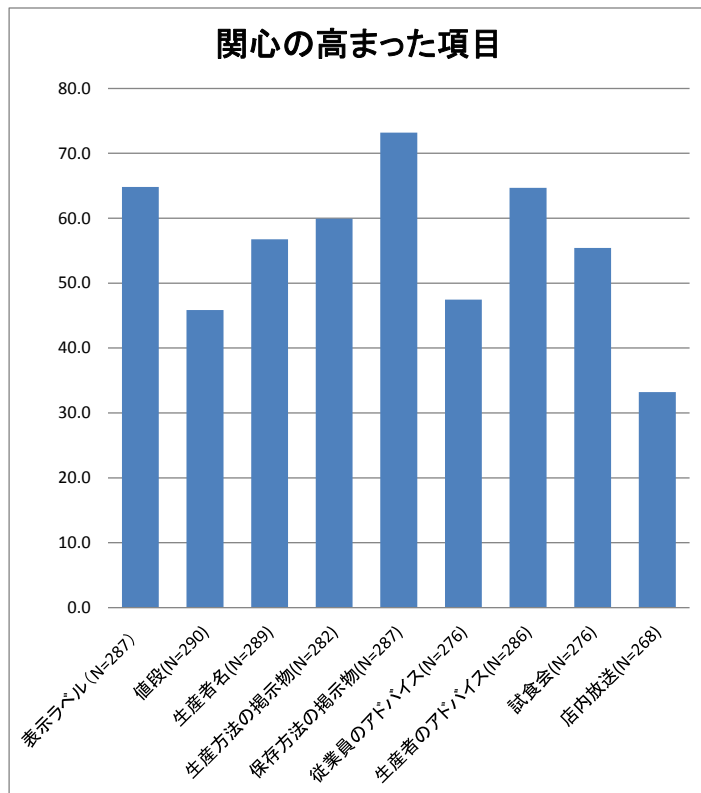
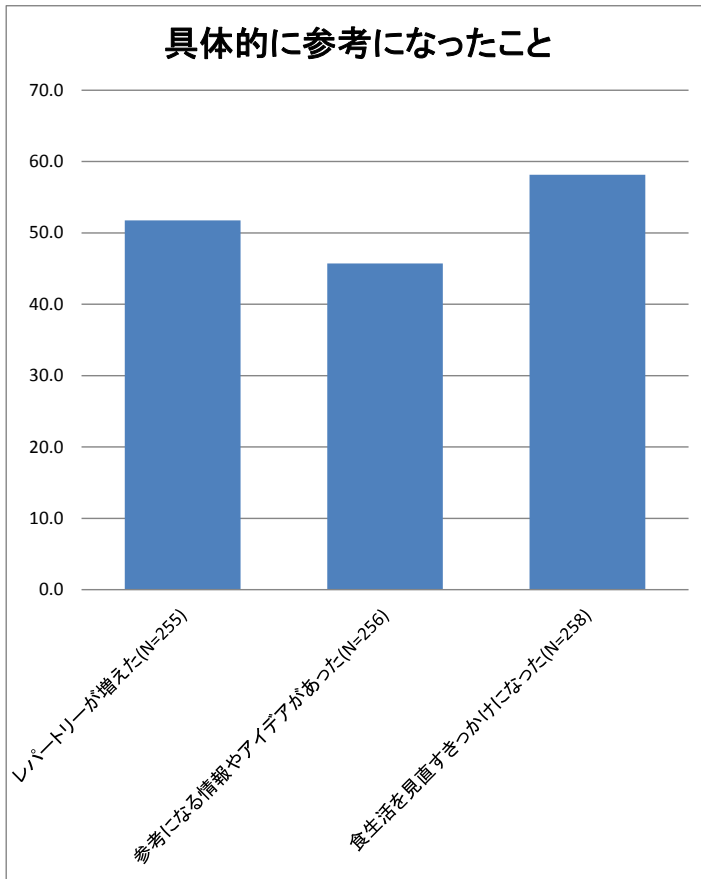
料理を作る回数や家族と食事する回数に大きな変化は見られない。食育活動から食事の環境を変えることは難しい。一方、野菜料理の皿数を見てみると、1~2皿が減り、5~6皿や7皿以上の人が増加するなど食事の質に変化が認められた。

食育活動の内容と効果は連動



食育活動の評価として「おいしかった」という評価が約6割、次いで「野菜に関する知識が増えた」という評価が約5割であった。試食に参加した人が多かったD店舗に関しておいしさを

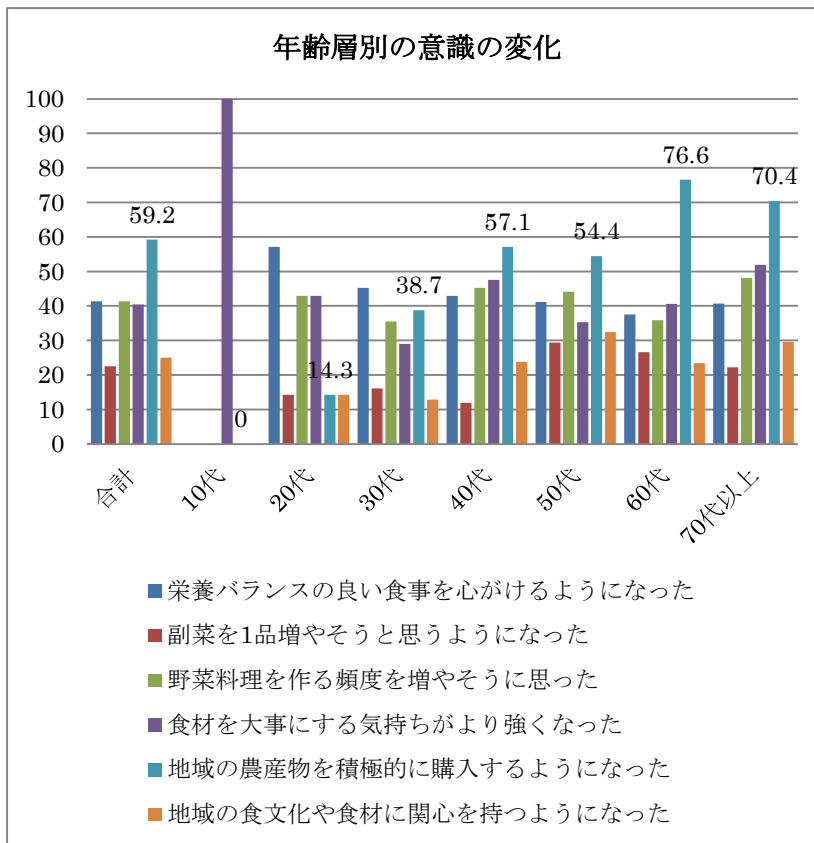
実感した人が多い。数回にわたり料理講習会を開催したC店舗については料理スキルの向上を評価した人が多かった。



食育活動に参加した消費者の変化は、保存方法の掲示物については約7割、表示ラベルについては約6割の人が関

心が高まった。また、生産者のアドバイスや生産者名に関心が高まった人は約6割であった。生産者の顔が見える関係が食育活動をとおしてさらに進んだといえる。

もっとも大きな意識の変化は「地域の農産物を積極的に購入するようになった」こと



年齢層別に意識の変化を見てみると、20代、30代では食事バランスの良い食事を心がけること、40代以降は地域の農産物を積極的に購入するようになったという結果であった。